

博士論文内容の要旨及び博士論文審査結果の要旨

氏名(生年月日)	吉田 升	(****年**月**日)
本籍	*****	
学位(専攻分野)	博士(健康科学)	
学位授与番号	甲第158号	
学位授与日付	令和元年9月20日	
学位授与の要件	学位規程第3条第3項該当	
論文題目	長縄跳び運動における回し手と跳び手の運動生理学的関連性に関する研究	
審査委員	教授 宮川 健	教授 矢野 博己
	教授 小野寺 昇	

博士論文内容の要旨

本博士論文(以下本論文)は、長縄跳び運動の運動生理学的特性を研究した内容であり、健康科学分野に相応しい研究論文である。本論文は、6つの実験から構成され、回し手と跳び手の運動強度を運動生理学的指標を用いて明確化した研究である。本論文は、6つの実験から次の結論を導いた。①回し手と跳び手の運動強度は、縄の回転数に依存すること、②回し手の運動強度は、跳び手がいれば高くなること、③跳び手の運動強度は、約12Metsであり、回し手に近い位置ほど高くなること、④小学生の運動強度は、高強度運動であること。以上の研究成果から健康・体力づくりに関する次の提言を導いた。①体力向上や健康づくりなどの目的に合わせた運動強度の設定が可能であり、そのための回し手と跳び手の相互協力が求められる。②小学生にとっては、高強度運動になることから基礎体力の鍛錬が十分であることが指導者に求められる。③1回の運動時間は、3分以内が望ましい。④一斉跳びよりも八の字跳びが望ましい。⑤回し手は、跳び手よりも高身長者が望ましい。⑥高齢者のスポーツ障害予防を念頭に置き、長縄跳び運動は控えることが望ましい。

博士論文審査結果の要旨

本論文は、長縄跳び運動における回し手と跳び手の相互関係が運動強度に及ぼす影響を明らかにした研究であり、適切な健康科学分野の未解決の課題に取り組んだ研究論文である。課題の新規性を認める。研究に関する倫理的配慮(本学倫理委員会承認)及び研究における利益相反を開示など、求められる研究に関する法令を遵守した手続きを完了している。研究の仮説と研究の目的は、研究の背景から得た着想を明らかにするための経緯を適切に説明している。本論文の運動生理学的指標は、運動強度を数値化するために用いられてきた妥当性の高い指標であり、研究方法、統計処理の信頼性を認める。6つの実験は、研究仮説を解決するために細分化された実験から成り、研究目的に一致した実験構成になっている。結果の分析や提示は、研究論文に求められる水準を満たす情報であり、適切な説明になっている。先行研究が少なにかかわらず単縄跳び研究を考察の基本と捉え、長縄跳び運動の特性を運動強度の観点から考察を論理的展開している。導き出された結論は、研究仮説を支持し、長縄跳び運動の未解決課題を解明している。結論に小学生の資料を加えた意義が高いと評価する。